

農の架け橋



発行:茨城県鹿行農林事務所 経営・普及部門
(銚田地域農業改良普及センター)

TEL:0291(33)6193

Eメール: rokkonourin03@pref.ibaraki.lg.jp

連日厳しい暑が続いています。

体調管理が最優先！休憩はこまめに！水分補給は充分に！

サツマイモ基腐病に注意！遵守事項の見直しについて

サツマイモ基腐病は、年間を通じて発生する恐れがあります。そのため、侵入防止と早期発見が重要です。疑わしい症状を見つけた場合は、抜き取らずに速やかに普及センターへご連絡ください。

【侵入防止対策のポイント】

- ①苗の採苗日や購入先などの情報を記録
- ②育苗終了後は苗床の残さを適切に処分
- ③苗床は残さの分解を促した後、太陽熱土壤消毒を実施



【早期発見のポイント】

- ①定植後2か月間は、2週間に1回程度ほ場を巡回
- ②葉の変色や株元の黒変などの異常がないかを確認



サツマイモ基腐病の初期症状



写真出典：生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（O1020C）および戦略的スマート農業技術等の開発・改良（SA2-102N）令和4年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より

茨城県は、サツマイモ基腐病のまん延防止対策を強化するため、令和8年4月に遵守事項の見直しを行いました。

<対象者>

・全ての農業者（**家庭菜園**で栽培する方を含む）が対象です。

<発病を確認した場合>

・**発病株を速やかに抜き取り・処分し、関係機関の指導のもと薬剤散布や土壌消毒などの防除対策を実施する必要があります。**

遵守事項の詳細はQRコードからご覧いただけます。

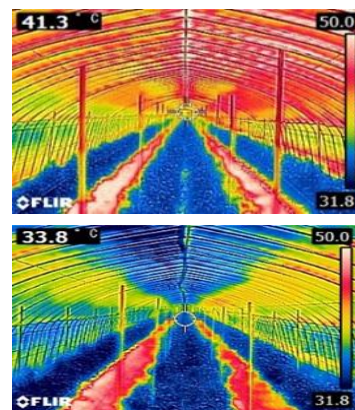


ハウス栽培の夏季高温対策について

近年、夏の猛暑により施設園芸ではハウス内の高温対策が重要となっています。高温対策の柱は「換気」、「遮光」、「冷却」です。光合成に必要な光はなるべく通し、熱線を多く反射する「遮熱」資材もあります。ここでは、トマトで実践された高温被害軽減対策の事例を紹介します。

●屋根散水で冷却

水の気化熱を利用してハウス内を冷却する方法として「屋根散水」があります。トマトハウスにおいて遮熱ネットと組み合わせた効果を検討しました。ハウス上に遮熱ネットを展張し、そのネットの上に灌水チューブを設置して日中に散水をしました。その結果、遮熱ネットのみの場合と比較して、散水時間帯のハウス内平均気温は1.5～2℃、最大で約4℃低下しました（写真上段が遮熱ネットのみ、下段が遮熱ネット＋屋根散水実施）。また、屋根散水を行ったハウスのトマト収量は、遮熱ネットのみのハウスと比較して約10%増加しました。



農作業の際の熱中症に気を付けましょう！

令和8年の夏も暑くなることが予想され、熱中症のリスクも高まっています。適切な対策を行い、この夏を乗り越えましょう。

～応急処置～

熱中症の症状が確認された場合は、**日陰に避難し、身体冷却**をして**水分補給**をしましょう。



～熱中症対策～

- ① アイテムの活用（空調服、ネッククーラー等）
- ② 水分・塩分補給を行う
（イオン飲料や経口補水液がおすすめ）
- ③ 作業前に冷たい飲み物等で体温を下げる
（プレクーリング）
- ④ ウォーキングや入浴等で暑さに慣れておく
（暑熱順化）



スマート農業導入の手引き（イチゴ編）の改訂について

イチゴ栽培において、面積当たり販売金額の向上や管理作業の省力化を目指すためには、スマート農業技術の活用が有効です。

茨城県農業総合センターでは、スマート農業技術の紹介や導入までのステップ、機器やデータの活用方法について紹介した「スマート農業導入の手引き（イチゴ編）」を4月に改訂し、ホームページ上で公開しました。

今回の改定では、令和5～8年に鉾田市内のイチゴ生産者のほ場で実施した「クラウン冷却」や「アルスプラウトを活用した換気等の自動化」といった実証試験の結果が追加されています。（右図）

導入の手引きは右のQRコードからご覧いただけます。儲かるイチゴ経営の実現に向けて、資料を参考にさせていただき、スマート農業技術の導入をぜひご検討ください。



スマート農業導入
の手引き公開HP

イチゴ編 2 現地実証事例⑥
【環境測定・制御装置を活用したハウス管理作業自動化の実証】

【概要】
イチゴ栽培が盛んな鉾田市では、環境測定装置を用いて気温や炭酸ガス濃度などのハウス内環境データを「見える化」し、最適な管理を行うことで高い生産性を実現する生産者がいます。一方で、環境・生育データの十分な蓄積や分析までには至っていません。細やかな管理の多くは手作業で行われており、莫大なる生産者の負担に繋がってしまっています。そこで、環境測定・制御装置「アルスプラウト」①②でハウス内の環境測定を行い、自動換気装置③および炭酸ガス発生装置④を制御することで、環境データを蓄積し分析を進めながら、換気や炭酸ガス濃度を自動制御することにより、高い生産性を維持しながら省力化を図る管理技術の実証を目指しました。

取り組みにおける導入技術と処理方法

①環境測定・環境制御装置「アルスプラウト」

②「アルスプラウト」内部センサー
③「アルスプラウト」制御ユニット

①「アルスプラウト」（サカタのタネ）：必要な機能と項目のみを選択して測定と制御が可能。他の機種より導入コストを抑えられるため、低コスト施設のハイハウス栽培との親和性が高い。
【測定項目】：気温、炭酸ガス濃度、湿度、相対湿度、日照時間

②自動換気装置「電動カンキット」 ③炭酸ガス発生装置「グローウエア」

②「電動カンキット」（東都環境）：ハウスの通行長さ100m、開口幅は最大1mまで対応。
③「グローウエア」（ネーブル）：CO₂発生量3（kg/h、LPGガス消費量）
【処理方法】：「アルスプラウト」の「内部センサー」による測定値に基づき、「制御ユニット」により自動換気装置、炭酸ガス発生装置を動作させてハウス内環境を制御する。

鉾田市内現地実証事例の紹介内容

水稻のカメムシ類対策について

近年、夏季高温に伴いカメムシ類が多発しています。カメムシ類は、水稻において不稔や斑点米の被害を引き起こし、収量・品質を低下させます。カメムシ類の中でも不稔を引き起こすイネカメムシが、近年特に問題となっています。下記を参考に防除を心掛けましょう。

～主な防除方法～

○出穂2週間前までに畦畔の草刈りをしましょう。

→出穂前、カメムシ類は、イネ科雑草に集まるため、水田への侵入を抑制できます。

※水稻の出穂期後に畦畔を除草すると、カメムシ類が水田に追いつまれ、被害が増える恐れがありますので注意してください。

○①出穂期～穂揃期、②乳熟期～糊熟期（出穂後10～20日）の2回防除が効果的

→①出穂期～穂揃期は不稔（しいな）の予防、②乳熟期～糊熟期（出穂後10～20日）は斑点米を防ぐための防除になります。



↑イネカメムシ
写真出典：茨城県農業総合センター病害虫防除部

ハウス密閉高温（蒸し込み）処理でウイルス病媒介アザミウマ類、コナジラミ類を「残さない」！

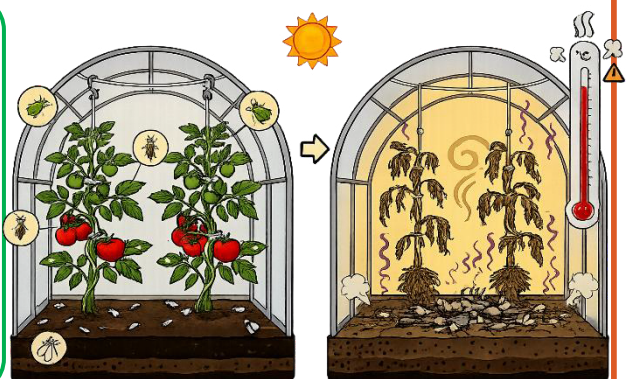
①抜根・除草
作付け終了後、作物を誘引したまま抜根し、ハウス内の雑草も除草する。

△株の積み重ねや雑草の放置は殺虫効果が低下するので注意。

②ハウスを密閉
①の後直ちにハウスを完全密閉し高温を維持。

※処理期間の目安
高温時（夏季）2週間程度
低温時（冬季）4週間程度

③ハウス外へ廃棄
処理後、残渣をハウス外へ搬出し適切に処分。



茨城県立農業大学校 2026年度オープンキャンパス開催！

就農をお考えの方！農業や動植物に関心のある方！お気軽にご参加ください。

★体験入学会（学校説明、学習成果発表、実習体験、学食試食、寮見学など）

長岡キャンパス（農学科、畜産学科）

7月30日（木）10:00～14:00

岩井キャンパス（園芸学科）

7月31日（金）10:00～14:00

お問合せ：長岡キャンパス 029-292-0719 担当/新堀、岩井キャンパス 0297-34-2141 担当/古矢